

## ○ TOKYOイイシナ展示会で「TOKYO X」を紹介、加工品でのギフト展開も

東京都のブランド豚「TOKYO X」の流通・販売事業者らで組織する「TOKYO X-Association」(石井高洋会長、以下アソシエーション)はこのほど、東京都台東区の東京都立産業貿易センター台東館で開かれた「TOKYOイイシナ展示会」に出展した。

同展示会は今回で2回目。東京都地域特産品認証食品(Eマーク認証食品)や、農林水産物の販路開拓とPRを目的に開催されたもの。会場には、都内産のEマーク認証食品事業者や加工食品製造事業者、都内一次加工品生産者などが一同に会し、来場者に東京の食材をPRした。

TOKYO Xアソシエーションでは、「TOKYO X」のバラ肉、肩ロースを焼肉として試食提供し、興味を持つ来場者との商談を行っていた。伊藤晴規副会長は、「これまで半丸やセット売りを中心だったが、今後はパーツ販売や加工品開発に注力していく。インバウンド需要の増加から、『東京発のおいしい豚肉』として飲食店やホテルなどへ販路を拡大していきたい」とし、販売力やブランド価値を訴求した。一般の消費者に対してもリーフレットなどを通じ、「TOKYO X」が食べられる場所や、分



かりやすい情報を発信していきたいとした。今回の出展について「改めて東京の食材をクローズアップすることで、『東京にもおいしいものがある』と再認識してもらい、来年開催される東京オリンピック・パラリンピックや、将来の輸出などに向けたきっかけづくりになればと思う」とコメントした。

大多摩ハム小林商会は、「TOKYO X」を使用した加工品を紹介。「TOKYO X」シリーズとして、ウインナーやロースハム、ベーコンなどを紹介した(=写真)。現在、都内の百貨店などではギフトとして展開されており、会場でも東京都の特産品としておみやげやギフトでの提案を行っていた。